

シドニー留学便り__vol.9 (最終回)

こんにちは。日本は寒い日々が続いていますね。先週末、日本に帰国いたしました。時差こそほとんどないものの、真夏から真冬という季節の違いがあまりに大きく、またシドニーの冬はここまで寒くなかったのが、久々の日本の寒さに体がびっくりしています。そんな中、ちょうど私が帰国した翌日、シドニーで大変大きな事件が起こりました。帰国前にシドニーの街歩きを毎日のようにしていたので、自分がいたかもしれない場所で起こった事件はとても衝撃を受けました。

さて、前回のお便りの後は、人生最後？の卒業旅行ということでケアンズを訪れたり、シドニー界隈でまだ行ったことのない場所に行ってみたり、友人たちとの farewell lunch & dinnerの予定が入ったりと、帰国準備を進めながら、若干忙しく、充実した日々を過ごしておりました。

■ Pre-graduation ceremony

前回のお便りで少し触れましたが、オーストラリアの大学の卒業式はカリキュラムが終了してから約6か月後に行われます。多くの留学生が正式な卒業式に出席できないという実情を考慮して、School of Public HealthではPre-graduation ceremonyが行われ、ごく一部の留学生とともに参加してきました。まだ正式な結果が出る前ということで、ガウンと角帽の着用は自由で、全課程を終えたという証書を一人一人に手渡されました。意外にも、主な教授・講師陣がガウンを着て参加しており、参加学生の数が少ない分、先生方と写真を撮ったりお話ししたりとゆっくりと時間を過ごすことができ、アットホームな雰囲気が出ました。



School of Public Health の正面玄関にて。20名前後の参加者でこじんまりとした会でした。正式な卒業式の際には、この黒いガウンに、Hoodと呼ばれる facultyとdegreeによって色が異なるものを肩にかけるのですが、今回は正式ではないのでそれは借りられず…黒いガウンと角帽のみです。それでも、雰囲気を味わうことができました。

証書をいただいたときに、一人ずつ写真を撮ってもらえました。向かって右側がEpidemiologyを教えてくださいましたTim教授、左側がBiostatisticsを教えてくださいましたKevin先生です。TimもKevinも(こちらでは、たとえ教授でもみんなファーストネームで呼びます)とても気さくで、話しやすく、教育熱心な先生方で、学生の間でも人気がありました。角帽についている房の位置ですが、学位授与後は自分の右側から左側に垂れるように変えるのですが、まだ正式な学位ではないし…と思い、右側のままにしてみました。

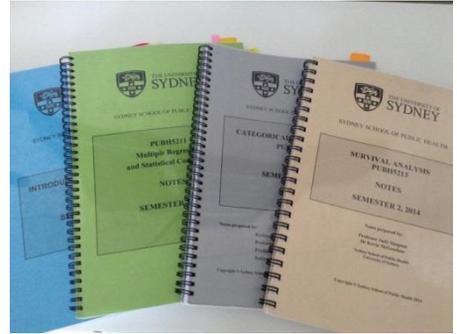


正式な結果(成績)ですが、本来ならばそろそろ出ているはずなのですが、まだ一科目の採点が終わっていないようで、最終結果はクリスマス&New year休暇明けになりそうという連絡が先日届きました。なるほど、こういうことがあるから卒業式が半年後なのか？と、ちょっと納得しました(笑)。

■ 一年間の留学を終えて…

疫学と生物統計学を中心とした基礎固めと新たな知識の習得をしたいという当初の目的を達成することができたという点で、充実した一年間が過ごせたと感じています。全く初めて学ぶ内容ではないぶん、知識が飽和状態になってあたふたすることも少なくすみ、落ち着いて、今まで学んできた知識を修正・整理しつつ、新しい情報を取り入れることができました。日本でPhDを取得した後も、系統的に公衆衛生・疫学を学ぶことを目標にするならば、シドニー大学のMPHプログラムはとてもまとまっていた良いなと感じました。

Biostatistics関連の科目 (Introductory Biostatistics, Multiple regression analysis, Categorical data analysis, Survival analysis) は全て、これらコースノートをもとに講義・チュートリアルが行われました。このコースノートには、統計手法の基本からモデリングの方法、SASの使い方などなど、必要な事項がカバーされていて、ほかの教科書を参照する必要がほとんどありませんでした。



さて、よく聞かれるのは、一年間で英語力は改善したか？という点ですが、読み書きは多少慣れたところもあると思いますが、正直なところ、会話はそこまで飛躍的に上手になったとは言えません。口をついて出てくるのは、相変わらず文法の間違いがいっぱいbroken Englishです。ただ、話さなくてはならない状況に常に置かれていたということもあり、間違いを恐れず何かしら話そうという姿勢は身に付いたかなと思います。やはり、語学は一朝一夕では身に付きません…。これからも、なるべく英語に曝露することで、なんとか維持・改善していきたいものです。

私のいたMPHプログラムは、多くがDomestic studentsで日中働きながらのpart-time studentsが比較的多かったのですが、MIPH (Master of International Public Health)プログラムには留学生が多くいたため、オーストラリア出身の友人のみならず、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィジー、アルジェリア、U.S.などなど、様々な国々の友人たちと出会うことができました。今すぐに何か研究などにつながるネットワークではないかもしれませんが、様々な文化や宗教的な背景や国の状況を知るきっかけともなり、今後も大切にしていきたい貴重なつながりができました。



上の話題と全く関係ありませんが、シドニー街歩きをしている中で、偶然見つけたBlack swanです。意外と近場の公園にたくさんいました。オーストラリアにしか生息していない(?)とも聞きましたが、日本では見ることはできない珍しい鳥です。

■ ケアンズ旅行

すべての課題が終わってから帰国まで約1か月ほどの自由時間があったので、マレーシア出身の一番仲のよかった友人と二人でケアンズ旅行を計画し、5日ほど行ってまいりました。ケアンズは、シドニーから飛行機で3時間ほど北上したところにある亜熱帯気候の都市で、グレートバリアリーフに行く起点となる観光都市です。私にとっては、初めての南国のサンゴ礁の海(実は、沖縄にも行ったことはありません…)でした。学生の貧乏旅行でしたので、滞在はB&Bと呼ばれるシェアハウスのような宿泊施設(バス・トイレは共用)でしたが、訪れる場所全てがきれいなところばかりで、日本ではなかなか味わえない自然を楽しむことができました。その様子を写真ですこしご紹介します。



グレートバリアリーフに浮かぶグリーン島にて。海の透明感に感動しました！(左)



ケアンズ近郊のビーチ。ここも広い砂浜の素敵なビーチですが、泳げません。なぜなら、夏場はクラゲがいて危険だからです。(右)



クラゲを避けるため、各ビーチにこのような Stinger net で囲まれた遊泳可能区域がありました。



大陸に面したビーチでは、クラゲ (Stinger) やクロコダイルがいるため、遊泳禁止のサインが多くみられました。ここにある Vinegar は Stinger に刺された時の応急処置用のようです。

留学開始時から始めさせていただいた留学便りですが、みなさまに有意義な情報がお伝えできたか...? という自信がありませんが、少しでもお役にたてていたら幸いです。

充実した留学の機会を与えてくださったすべてのみなさまに、あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました！



おわり！